

# 気管支喘息について

今回は呼吸器内科 長井敦先生に「気管支喘息」について伺いました。



▲長井 敦 医師

変わり目などに強く出るのが特徴です。「たまに点滴すれば大丈夫」「しんどい時だけ吸入をしている」という方は要注意です。症状が出ていなくても、炎症は体の中に進んでいることがあります。気管支喘息では、症状が目立っていない時でも吸入薬を継続し、症状が出ない状態を維持することが重要です。

上記に挙げたような症状がみられる方は、かかりつけの先生や当院呼吸器内科までご相談ください。また、炎症が気管支喘息の主因であることは前述の通りですが、炎症の中にも様々なタイプの

ものがあることが分かってきております。

さらに、それぞれの炎症のタイプに応じた新しい薬も登場しており、治療の幅が広がっております。喘息の治療を続けているのに症状がなかなか改善しないという方も、お気軽にご相談ください。

「気管支喘息」を存じでしょうか。「息がゼエゼエする病気でしょ」「子どもの頃言われたことがあるなあ」そんな言葉が聞こえてきそうです。気管支喘息は、気管支に炎症が長く続くことで、空気の通り道が狭くなったり広くなったりを繰り返す病気です。ゼエゼエや息切れといった症状が夜や明け方、季節の



社会福祉法人

恩賜財団

済生会今治病院

☎0898-47-2500

今治市喜田村  
7丁目1番6号



<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>